

子どもたちのスポーツ環境の 理想的な姿について

第2回 京のジュニアスポーツアカデミー構想検討会議資料

令和6年3月13日 文化生活部スポーツ振興課

<目次>

1. 第1回 構想検討会議での主な意見
 - ・子どもたちのスポーツ環境の現状・課題
 - ・これからのスポーツ環境の方向性

2. 本日いただきたいご意見
 - ・特に、早急に対策が必要な種目・競技や地域について
 - ・民間スポーツ団体や地域、保護者の役割について
 - ・地域の特色を生かす、あるいは京都らしい取組について

3. 各論点に関して、本日までいただいた御意見の概要

1 第1回 京のジュニアスポーツアカデミー構想検討会議での主な意見

子どもたちのスポーツ環境の現状・課題

- 地域移行の問題点は、①指導者の確保と資質、②費用負担や場所の確保、③部活動と学校教育活動を両立させるためのスケジュール調整。できることからやっていかないと進まない
- 地域クラブの場合、人材や場所の確保が難しいとよく聞く
- 部活動の地域移行について、行政主体ではなく民間主体の場合、運営費が課題
- 指導者の資質の確保や、国際大会など間近に見る機会の創出に向けたアリーナ整備が必要
- 部活動に携わりたい教員は一定数いるにもかかわらず、教員の働き方改革を一概に進めると指導者確保の機会を逸失しかねず、子ども、保護者、教員にとってメリットがない
- 学校のクラブをするだけでも金銭的な問題など、親の負担も大きい
- 指導者の資質が重要。指導者の資質は、指導力のみならず、子どもとの信頼関係の作り方や人格形成などにも表れる
- 小学生は、地域スポーツが盛んであるが、中学生は部活動以外の地域の競技環境が乏しい
- 小学生の地域クラブでは保護者も関わる人が多いが、部活動に入ると保護者とのつながりが途切れる印象

1 第1回 京のジュニアスポーツアカデミー構想検討会議での主な意見

これからのスポーツ環境の方向性

- 勝利至上主義(チャレンジ)のみならず、楽しめる(エンジョイ)スポーツができる環境の構築も必要ではないか
- トップを目指す子どもは地域のクラブチームに入る傾向があるが、経済的な理由であきらめる子どもが出てはならず、その環境づくりを進めるべき
- 地域ごとに特色があるため、京都という地域にあった施策を展開していくべき
- 勝敗にこだわらない大会も取り入れており手ごたえを感じている
- 民間は場所の確保・整備などハード面のサポートは難しいが、スポーツの価値や素晴らしさを伝えるため、地域の実情に応じてソフト面から協力することは可能
- さらに上を目指すクラブが地域にできると地域の活性化にもつながるのではないか
- 市町村単体では指導したい教員や地域の指導者と楽しくやるスポーツを実施、広域では競技団体やプロチーム、大学等と連携した組織づくりを行うなどエリアを分けて考えてはどうか
- これまでは学校や競技団体等がそれぞれの枠の中で取り組んできたが、相互にメリットのある形で全体として取り組むべき課題
- 子どもたちが住んでいる地域でやりたいスポーツに触れられるようにしたい。その解決策の一つが部活動の地域移行であるが、これに加えて、部活動の地域移行では救えない部分について、民間の力を借りながら取り組んでいきたい

4 本日いただきたいご意見（論点）

少子化の中でも、将来にわたりすべての子どもたちがやりたいスポーツに親しむことができる機会を確保するため

前回の御意見等を踏まえ、改めて御意見を伺いたいもの

論 点

 地域に応じて、子どもたちがスポーツに親しむための環境づくりに求められるものとして、

- ◆ 特に、早急に対策が必要な種目・競技や地域はどこか
- ◆ 民間スポーツ団体や地域、保護者の役割をどう考えるか
- ◆ 地域の特色を生かす、あるいは京都らしい取組とは、どういうものか

4 本日いただきたいご意見（論点）

各論点に関して、本日までいただいた御意見の概要

論点①：特に、早急に対策が必要な種目・競技や地域はどこか

- 府内を山城地域、乙訓地域、南丹地域、中丹地域、丹後地域のような広域エリアに分けてそれぞれの地域で求められるスポーツを考えてはどうか。
- 今後著しく生徒数の減少が見込まれる地域やチームスポーツの合同チームでの出場が困難で、地域や民間スポーツでカバーできない地域への対応が必要。個人種目は比較的地域や民間でカバーできるのではないか。
- 競技人口の減少により、活動が保障されない競技・種目や地域をリサーチし、地域の現状を把握した上で見極める必要がある。
- 種目等については、子どもたちの希望を尊重し、個人及び団体競技を問わず対応することを基本としつつ、それぞれの地域資源の有無等を踏まえ優先順位を検討する基本データに基づいた検討が必要。
- 地域の施設整備状況等のデータに基づき、相対的に地域資源の充実度等が低いと想定される地方部において先行的に取り組むことが必要。
- 北部地域については、他の地域と比べてまだまだ移動距離が長く、人数も少ない中やりたい種目に取り組めていないのではないか。
- 少子化の進行により児童・生徒数の減少はどの地域にも当てはまる問題。少子化による競技人口の減少、団体競技の存続の不安定感がある。種目・競技の「人気・ブーム」による競技人口の増減があるが、定着の取組が必要。

4 本日いただきたいご意見（論点）

各論点に関して、本日までいただいた御意見の概要

論点②：民間スポーツ団体や地域、保護者の役割をどう考えるか

- 保護者は広域的に活動を行うことになると送迎や活動の支援を行う必要がある。
- 保護者も現場で自分のための運動やスポーツを行ってもらいたい企画も必要。
- 保護者への過度な負担が生じないことが地域移行の前提だと考える。
- 保護者についても、経済状況等に応じた一定の負担を求めることの検討も必要。
- 保護者にも最小限の負担（経済的・運営への協力）を願う必要があるが、納得できる説明、根拠が必要。
- 民間スポーツ団体は、単一種目展開になることが多いので、子どもが複数種目を選択できる運営組織が必要。
- 既存の民間スポーツ団体や地域がこれまで培ってきた指導・運営マニュアルを参考に、新たな活動環境を整備することも必要。
- 民間（企業等）支援も重要な要素。例えば、企業版ふるさと納税や企業協賛金の活用検討が必要。
- 指導者派遣のための謝礼等の金銭面を考えた場合、地域や保護者で長く携わっていただけの方であれば、持続可能なしくみが作れるのではないかと考える。
- 指導者や活動場所の確保などスポーツ環境を整えるためには、民間、地域、保護者の協力・連携が必須。
- 子ども達のスポーツ環境づくりを、一概に行政に求めるのではなく、それぞれの果たすことのできる役割の面からの検討が必要。
- 地域の中で、民間スポーツ団体が競技団体として横のつながりを持ち、子どもたちを中心に据えて小中学校とのスポーツを通じた役割について協議すること（場の設定）が必要。
- 今後必要なことは、「民間スポーツ団体」の役割と「学校の部活動」の役割をどう考えるかということだと思う。それらの両立を目指し、指導方針や内容、スケジュール、大会参加のあり方などを双方で協議するほか、平日は学校での部活動、休日は民間クラブチームで学校とは異なる種目（競技）の活動をするなど活動日を棲み分けられるような工夫をすべき。

4 本日いただきたいご意見（論点）

各論点に関して、本日までいただいた御意見の概要

論点③：地域の特色を生かす、あるいは京都らしい取組とは、どういうものか

- 地域性を生かすことが重要。地域の人的資源を確保するため、子どもの指導を希望する大学生の確保。退職教職員、兼業兼職を認められた現役教職員、有資格のスポーツ指導者等への協力を求めることが必要。
- 府北部、府南部では、それぞれ地域の特色がある。その特色をいかした取り組みになるようにすることが望まれる。人との(場所)をつなげて活動していけるように仕掛けることが必要と思う。
- 本府のジュニア世代の競技力の高さを維持するための「トレセン制度」と、北部・中部・南部の異なる自然環境を活かした生涯スポーツの充実。競技スポーツ以外の視点でも地域移行を捉えること。
- スポーツを楽しみたい子どもたちが、日頃の練習の成果を確認できる機会や試合を行える交流大会を、地域やスポーツ団体、民間団体、企業の協力を得て年1回は実施できると良いと思う。
- 京都国体を機に地域に根付いたスポーツ種目が、それぞれの地域の生活、文化にもなっていることから、これらの種目についての更なる支援の強化。
- 府内には地域に根ざした企業が多くあることから、それらの京都企業の支援が地域づくりにつながる取組となる仕掛けづくりの検討。
- 地域にある施設や環境を生かすため、その地域で特に力を入れている競技種目を核とした競技環境づくり。
- 指導者等スポーツができる環境を支える人的な補強のため、京都にある大学等との連携し、学生への取組の周知と活用を図ることを考えてはどうか。